

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1. 市民会館・公民館施設・設備概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07 m^2 建設延床面積 6,771.253 m^2

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造で、

その施設、設備、職員、機能を通じ、

- (1) 市民の出あい場（ひろば）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造の場（劇場、音楽堂）

の役割を果たしている。

市民会館・公民館各室の主要設備と機能

1.室 名	2.面 積	3.収容人員	4.主 要 設 備	5.主 要 用 途	6.備 考
大ホール	舞台面積 230㎡ 客席面積 900㎡	1,210	〔舞台〕舞台操作盤，緞帳，絞り 緞帳。引割幕，廻り舞台，反射板 各種平台，所作台，吊り物バトン 松竹羽目，金屏風，舞台用イス その他各種催し物用舞台備品 〔照明〕調光装置，フットライト ボーダーライト，スポットライト ピンスポットライト，照明用ステ ージスタンド その他各種照明設備 〔音響〕音響調整卓，エコーマシ ン，グラフィックイコライザー， エレベーターマイク装置，ワイヤ レスマイク，各種マイク及びマイ クスタンド，オープンリール・カ セットテープレコーダー，レコー ドプレーヤー卓，ステージスピー カー，プロセニアムスピーカー， はねかえりスピーカー その他音響設備 〔その他〕16mm映写機セット ピアノ（フルコンサート，セミコ ンサートピアノ）電子オルガン， モニターカメラ装置	音楽会，演劇，映画会， 講演会，TV中継，舞 踊など多目的に使用可 能	身障者用スペース 4 客席25列 （A～Y） 大ホール内主催者 控室 ピアノ，電子オル ガン及び一部舞台 照明，音響備品は 小ホールと兼用 大ホール内照明， 音響，映写室 大・小ホール連絡 用運搬エレベーター

小ホール	舞台面積 66 m^2 客席面積 223 m^2	260	〔舞台〕舞台操作盤，緞帳，引割幕，反射板，吊り物バトン，その他 〔照明〕調光装置，フットライト，ボーダーライト，スポットライト，ピンスポットライト，照明用ステージライト その他 〔音響〕音響調整卓，ワイヤレスマイク，各種マイク及びマイクスタンド，レコードプレーヤー卓，オープンリール・カセットテープレコーダー，プロセニアムスピーカー 〔その他〕モニターテレビ装置 16 mm 映写機セット	音楽会，発表会，映画会，演劇，講演等多目的に使用可能	身障者用スペース 4 客席10列 (A～J) 小ホール内主催者控室 小ホール内照明・映写，音響室
控室1～4		No.1 - 18 No.2 - 8 No.3 - 8 No.4 - 5	化粧台，モニターテレビ（大小ホール用），姿見	大・小ホール専用控室	大・小ホール所属 No.4のみ和室
リハーサル室	73 m^2		化粧台，モニターテレビ（大・小ホール用），姿見，パー	大・小ホールリハーサル及び控室 音楽，演劇などの練習	大・小ホールの使用がない時一般使用可能

1.室 名	2.面 積	3.収容人員	4.主 要 設 備	5.主 要 用 途	6.備 考
第1集会室	28 m^2	18	机, イス, 黒板	会議, 集会, サークル活動など	第1.2集会室は、つづき部屋として使用可能 (通常スライディングウォールにより仕切り)
第2集会室	59 m^2	30	机, イス, 黒板	会議, 集会, サークル活動など	
第3集会室	89 m^2	40	机, イス, 黒板	会議, 集会, 研修等	
第4集会室	68 m^2	35	机, イス, 黒板	会議, 集会, 研修等	
第5集会室	158 m^2	78	机, イス, 黒板, 拡声装置, レコードプレーヤー, 演壇 折りたたみ机, イス	会議, 集会, 研修等	第4.5集会室はつづき部屋として講演, ダンス練習などに使用可能
第6集会室 (和 室)	39 m^2	15	水屋, 炉, 和室用机, 座ブトン	集会, サークル活動など和室を必要とする活動	第6.7集会室はつづき部屋として使用可能 茶室として使用可能
第7集会室 (和 室)	39 m^2	15	和室用机, 座ブトン		
第8集会室	20 m^2	10	机, イス, 黒板, アコーディオンカーテン	小会議, 集会など	

調理室	54 m^2	30	ガスレンジ・オープン，流し付調理台，冷蔵庫，調理用備品 黒板	料理講習，実習	禁煙
美術工作室	60 m^2	30	作業机，イス，流し，黒板 焼窯（陶芸用），手回しロクロ	美術，工作活動	禁煙
音楽室	71 m^2	30	ピアノ，音楽用スライド黒板 机，折りたたみイス	音楽練習	禁煙
視聴覚室	66 m^2	30	ステレオセット（スピーカー， チューナー，アンプ，オープン リール・カセットデッキ） OHP，映写用スクリーン メモ台つきイス，スライド黒板	音楽鑑賞，映写活動 音楽用テープ編集など	音楽室，視聴覚室兼 用準備室付，音楽練 習にも使用可能 禁煙
展示室	107 m^2	30	展示用パーティション	各種展示	児童室単独の使用不 可，婦人学習，活動 に伴い保育を必要と する場合他の部屋と 共に使用
児童室	38 m^2		フトン，座ブトン，クツ箱 小児用便器，ホワイトボード 小児用机	婦人学習，活動にと もなう保育	
団体事務室	22 m^2		机，イス，黒板，リコピー， 団体，サークル用ロッカー，膳 写版	公民館活動団体， サークルの会議，打 合せ等	団体，サークル等の 申し出により使用許 可
資料室	10 m^2		社会教育関係書籍及び資料	社会教育関係の書籍 資料の閲覧，研究等	閲覧希望者の申し出 により使用許可

2. 市民会館・公民館 利用状況

利用件数

施設名		6			7			8			9			10		
		月別			月別			月別			月別			月別		
		有料	減免	総数	有料	減免	総数	有料	減免	総数	有料	減免	総数	有料	減免	総数
市民会館	大ホール	0	0	0	7	0	7	11	0	11	16	0	16	25	0	25
	小ホール	0	0	0	25	0	25	19	0	19	14	0	14	27	0	27
	リハーサル室	2	8	10	2	3	5	6	6	12	3	14	17	8	7	15
	第1	0	9	9	4	20	24	5	13	18	7	20	27	16	19	35
	2	1	9	10	4	15	19	2	17	19	9	27	36	10	30	40
	3	2	4	6	10	11	21	13	19	32	6	28	34	10	31	41
	4	2	14	16	6	18	24	5	18	23	15	19	34	16	14	30
	5	2	15	17	8	22	30	5	21	26	19	15	34	16	11	27
	6	0	6	6	3	9	12	5	22	27	1	30	31	0	30	30
	7	0	3	3	2	4	6	4	7	11	2	24	26	0	18	18
	8	0	11	11	2	6	8	19	5	24	12	11	23	10	13	23
	展示室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	9	79	88	41	108	149	64	128	192	104	188	262	86	173	259
公民館	調理室	2	2	4	0	9	9	0	5	5	0	2	2	0	6	6
	美術室	0	1	1	0	2	2	0	3	3	0	3	3	0	5	5
	音楽室	0	34	34	3	23	26	7	55	62	0	38	38	0	44	44
	視聴覚室	0	12	12	0	15	15	0	16	16	0	23	23	0	26	26
	児童室	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5	5	3	12	15
	計	2	49	51	3	49	52	7	80	87	0	71	71	3	93	96
合計		11	128	139	76	157	233	101	208	309	104	259	363	141	266	407

11			12			1			2			3			合 計		
有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数
件 23	件 0	件 23	件 13	件 0	件 13	件 11	件 0	件 11	件 23	件 0	件 23	件 14	件 0	件 14	件 143	件 0	件 143
23	0	23	19	0	19	11	0	11	4	0	4	19	0	19	161	0	161
3	6	9	5	5	10	10	5	15	9	0	9	0	1	1	48	55	103
8	24	32	12	10	22	12	14	26	14	15	29	12	22	34	90	166	256
6	29	35	2	22	24	7	22	29	18	26	44	13	40	53	72	237	309
7	29	36	6	28	34	6	25	31	5	40	45	8	41	49	73	256	329
15	21	36	7	13	20	3	15	18	8	21	29	10	17	27	87	170	257
11	19	30	13	11	24	11	16	27	12	22	34	15	14	29	112	166	278
3	16	19	13	14	27	6	13	19	10	8	18	5	12	17	46	160	206
2	11	13	9	3	12	15	4	19	18	5	23	13	9	22	65	88	153
8	21	29	4	11	15	12	8	20	16	12	28	19	10	29	102	108	210
0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
63	184	247	71	117	188	82	122	204	110	149	259	95	166	261	695	1414	2109
2	5	7	0	8	8	0	7	7	0	4	4	0	3	3	4	51	55
0	14	14	0	9	9	0	5	5	0	8	8	0	15	15	0	65	65
0	39	39	1	26	27	4	28	32	1	29	30	8	38	46	24	354	378
0	27	27	0	31	31	1	22	23	0	27	27	1	34	35	2	233	235
0	9	9	3	5	8	0	11	11	0	14	14	0	14	14	6	71	77
2	94	96	4	79	83	5	73	78	1	82	83	9	104	113	36	774	810
111	278	389	107	196	303	109	195	304	138	231	369	137	270	407	1035	2188	3223

3. 市民会館 完成祝賀行事
公 民 館

月 日	曜	催しもの内容	開演時間	会 場
6 月 29 日	水	会館完成祝賀式典及びこけら落とし 市民文化展	午前10時30分より 午前9時から午後5時	大 ホール 各 集 会 室
6 月 30 日	木	TBS公開録画“歌のアルバム” 市民文化展	午後6時 午前9時から午後6時まで	大 ホール 各 集 会 室
7 月 1 日	金	山根弥生子ピアノリサイタル 市民文化展	午後6時30分 午前9時から午後6時	大 ホール 各 集 会 室
7 月 2 日	土	歌と笑いのヒットパレード 市民文化展	午後2時 午後6時 午前9時から午後6時	大 ホール 各 集 会 室
7 月 3 日	日	児童劇“ねぎの里は大さわぎ” 市民文化展	午前11時 午後3時 午前9時から午後3時	大 ホール 各 集 会 室
7 月 9 日	土	市民パレエ公演	午後5時30分	大 ホール
7 月 10 日	日	市民パレエ公演 市民音楽会 市民吟詠会	午後12時 午後4時30分 午前10時	大 ホール 大 ホール 小 ホール
7 月 16 日	土	市民日本舞踊	午後12時	大 ホール
7 月 17 日	日	市民民謡（唄と踊り） 市民小劇場（人形劇と放送劇）	午後12時 午後2時	大 ホール 小 ホール

4. 奨励・援助

- (1) 人的援助 各団体・グループ・サークル・個人の相談に応じ、必要な助言、指導、援助等に職員、講師、助言者等の派遣紹介を行なった。 年間延回数105回

なお、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これらの市民の活動の相談にのり、必要な援助をするため、館職員が1名残る体制をとっている。(午後5時から10時まで)

- (2) 教材、教具等の利用

教材、教具の利用実績

品名	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16ミリ映写機		4	5	7	8	7	8	4	10	5	4	5	6	73
8ミリ映写機							2	1					2	5
8ミリ撮影機			1		1	1		1	1	1				6
スライド映写機		1		1	1			1	2	1				7
オーバーヘッドプロジェクター		1								1				2
テープレコーダー					4	3	1	1	2	1		1		13
暗幕		1	2	1	3	4		2		4			3	20
スクリーン				1	3	5	2	1	1	2	1		3	19
スポットライト										1				1
テント					1	3								4
16ミリフィルム			1			2		3	1					7
計		7	9	10	21	25	13	14	17	16	5	6	14	157

- (3) 事務援助

印刷事務等 連絡協議会的団体

- (4) 会場借上

大ホール1回(吹奏楽)

小ホール3回(市民コーラス、吹奏楽アンサンブル2回)

5. 主催事業

1. 少年

子ども会実技講座

地域子ども会の大人の指導者に対して、子ども会指導の実務的側面＝野外活動の方法やゲームの指導等、主に技術習得を中心とした講座を次のとおり実施した。

子ども会実技講座

最近、ついて行けない子がふえてきている。あるいは、遊べない子どもがふえている。地域のガキ大将がいなくなった。等々、さまざまなかたちで、子どもたちの生活の悪化がいられています。そして、かつて子どもたちがもっていた、生き生きとした生活のドラマが失なわれています。しかも子どもたちの集団が持っていた平等感とか、いたわりを通しての子どもの中の民主主義が失なわれてきたという状況です。

いまこそ、地域に子どもたちの生き生きとした生活を取りもどし、子どもたちの生き生きとした集団の生活を生み出して行く必要があります。子ども会実技講座は、子ども会をすすめている人、あるいは、これから始めたい人々のために行う講座です。

子どもたちが地域で生き生きとした生活を創り出すために、どんな手だてが必要なのかを皆さんと一緒に考える講座です。

期 間 6月29日(木)から毎水曜日 5回

午後7時30分から午後9時30分まで

会 場 福生市公民館、福祉会館

講 師 草 一平氏(全日本レクリエーションリーダー会議常任理事)その他

参加者 23人

内 容

月日	テ	マ	内	容
6.29	子どもをめぐる状況	ゲーム指導の手引き	いまの子どもたちの状況を考える。 ゲームとは何か その実技	
7.6	地域の子どもの集団の とらえ方	ゲーム指導の手引き	かつて子どもたちは地域の 主人公であった。 その集団の中には子どもた ちのめざす集団像があった。	ゲーム指導の こつと、実習
13	地域子ども会の実際	キャンピングとその技術	子どもたちが主人公になる 地域の子どもの会とは、地域 子ども会をよりよく運営す るために。	キャンピングは民 主主義の学校
17		キャンピングとその技 術実習	野外でキャンピングの実習 基礎的な技術を会得する(場所はおって通 知します)。	
20	地域の子どもの組織運営	レクリエーションの指導者 として		

わんぱく教室

ねらい

子どもたちの集団の力が失なわれてきているといわれてからだいふたつ。集団の力だけでなく、“生活する力”のようなものが年々弱くなってきている。学校教育のひずみだけでなく、生活全体に対するとらえがあまりにも概念すぎるのが今日の子どもたちの特色であると思う。家庭における子供たちの立場がそれだけ、“生活”と切りはなされてきているといえる。かって子どもたちが生活の中で得た豊かな生活知識は多くの場合、体を動かしながら得た体験的知識として裏打されていた。それは、労働の経験をともなっていたといえる。

わんぱく教室は労働の経験を大事にしながら、今年は学ぶことのたのしさを加え、縄文時代の生活を追体験する中で、仲間と共同して作業するたのしさ、労働の経験等の追求をこころみて、次のとおり実施した。

わ ん ぱ く 教 室

縄文時代の生活にちょうせん

夏休みはもうすぐだ、君たちは夏休みをどう過ごすかもう計画をたてたかい。

今年のわんぱく教室は縄文時代の生活にちょうせんしようとおもう。石器も作れば、火もおこす。発掘もやる、もちろん最後は縄文村も作りたい。縄文村ができるかどうかは、君たちがどれだけがんばれるかにかかっていると思う。この縄文村の中味は君たちが考えながら作るんだ。だから本気になってとりかからないと縄文村は出来ない。それにはみんなの力と知恵とが必要だ。

日 時 7月9日(土)から 全14回 参加者56人

場 所 福祉会館、体育館、その他

プログラム

7月9日	オリエンテーション		集合時間
16日	ゲームを覚えよう 君たちの班を作ろう	福祉会館	午後1時30分～
23日	縄文時代の人々はどうやって道具を作ったか	体育館集合	〃
27日	縄文人の方法で火をおこそう	福祉会館	午前10時
30日	話しあい	福祉会館	午後1時30分
8月3日	縄文時代の住宅と生活	市民会館	午前10時
6日	縄文人の小屋を作ろう	体育館	〃
10日	手づくりで食料をつくろう		〃

8月13日	長沢遺跡の発掘に参加しよう	長沢遺跡	午前9時
14・15日	〃	〃	〃
17日	縄文村作りの話しあい	市民会館	午前10時
22日 ～ 24日	) 縄文村作り 会場等は8月に入ってから知らせます	会場未定	〃

お世話する人 福生公民館 加 藤 0425-52-1711

おはなししてくれる人 森田さん 田村光男先生

〇〇子どもの教育と文化を考える講座

ねらい

子どもたちの生活に豊かさがなくなって来たといわれる今日の状況は、子どもたちの生活の中に文化性が失なわれて来たということだと思う。子どもたちの生活がそれだけ単調になって来たといえる。一方、子どもたちの教育状況をめぐっては、非行、おちこぼれを始めとして多くの問題を生みだされてきている。しかも、多くの教育に関する情報だけは、大量に流されてくる。こうした中で、子どもの成長や発達にとって大事な問題を整理しながら、文化、教育状況をたたく理解して行く場として次のとおり実施した。

期 間 10月19日(木)から毎水曜日 全7回 午前10時から12時まで

会 場 福生市公民館

参加者 13人

プログラムと日程

10月19日	いま子どもたちの教育や文化についてかかえている問題を出そう。
10月26日	いま子どもたちの教育や文化を考えるにあたって子どもたちのおかれている現状をとらえ直しておきます。こどもたちの地域での生活が、
11月9日	いま子どもたちは 塾やあそびの問題、おちこぼれとかその実態は等々、いま子どもたちがかかえる現状を明らかにして行きます。
11月16日	マスコミと子供 子どもたちの文化を考えると、雑誌、マンガ等の活字文化を見ずとすることはできません、いま児童雑誌、マンガがどういう意図で作られるかをさぐる。
11月23日	テレビと子ども 子供とテレビは大変切っても切れないものです。しかもテレビを通して子供に対する働きかけが決してプラス作用を生み出してないという現状を考えます。
11月30日	子どもの集団と地域 かって子どもたちの広場であった地域の変化を子供たちの集団が地域の中ではたした役割等を通して、子供のあそび集団を考える。
12月7日	学校と子どもをめぐって おちこぼれ、塾、入試等さまざまな問題をかかえた学校、新しい学習指導要領等でそれが解決されて行くのかを考えて行きます。

夏休み自然教室

子どもの成長にとって大事なものは、仲間、時間、空間だといわれる。特に空間、かつて子どもたちの生活を生き生きとさせた自然とのふれあいが失われてきている。自然の豊かな夏に子どもたちと自然とのふれあいの中で、自然の大事さ、自然観察の初歩的な科学認識を育てつつ、地域の自然を認識していく場として小中学生を対象とした自然教室をつぎのよう

期 間 7月28日から8月29日まで 全8回

午前9時30分から12時まで

参加者 40人

プログラム

7. 28. オリエンテーション

8. 4. 昆虫のしらべ方みかた

身近にいる昆虫の名前をしらべたり、観察するにはどんなくふうをしたら良いのか

8. 11. 自然のしくみを学ぼう

自然がどんなつながりでなりたっているかを考えます。

8. 15. 緑の地図を作ろう

ふっさのみどりの調査を行ないます。

8. 18. 自分でできる観察方法を学ぼう

自分で観察するときにはどんな注意が必要かを学びます

8. 22. 緑の地図を作ろう

8. 25. 植物のはなし

野にある草花の名前をおぼえるには・・・

野の草をつかって遊んでみよう。

8. 29. まとめを作ろう

冬の自然教室

自然保護の一つとして例年実施して来た教室である。多摩川に来る冬鳥の観察を通じて、福生や多摩川の自然をみつめて行くと同時に、自然にしみながら、地域の自然を考えて行く教室である。

期 間 2月5日から3月5日まで 全5回

午前8時30分から12時まで

参加者 30人

プログラム

月 日	テ マ	観 察 地 点
2月 5日	カモの名前をおぼえよう	柳山公園附近
2月12日	カモと水辺の鳥	多摩川秋川合流点附近
2月19日	林のとりをおぼえよう	玉川上水宮本橋附近
2月26日	草花丘陵の鳥	草花丘陵
3月 5日	まとめ どれだけおぼえたかな	

非行を考える講座

非行の講座をくむ状況

昨年にひきつづき非行の問題を中心に講座をくんだが、その視点と福生における非行をめぐる問題について若干ふれておきたい。

戦後3回目の非行のピークといわれる今日、その非行の質も、かつての2回とだいぶちがうかたちをとってきているといわれる。それは第1に貧困ということがあまり関係しなくなってきたこと、特に中間層に圧倒的にふえてきているといわれる。第2に、非行児とそうでない子供の境が失われてきているということ。そういう意味でだれもが非行児にすぐになっていく。第3に、非行が粗暴化してきていること。特に女子におけるそれが著しいこと、しかも非常に陰惨になって来ていること。第4に、万引等に見られる非行の遊戯化。第5に、これも大事なことだが、自分自身をいためつけるというかたちでの非行がふえてきていること。第6に、性的非行の増加等々である。こうした非行の特徴を福生市でもそなえ

ている。こうした非行の問題を基本的には、基本的人権と民主主義の破壊の問題としてとらえ直す。単に家庭教育・学校教育の問題としてとらえるのではなく、基本的人権を傷つけ、民主主義のルールを破壊するものとして非行をとらえ直すことが大事である。中学生の非行で学校がかなりあれた48～51年にかけて、地域で学校の教師と父母集団が手を結んだすばらしい実践、あるいは、不健全図書追放運動をめぐっての1中PTAを中心とした活動、あるいは青少協を中心とした運動等、いくつか目立ったものがあったが、非行の問題が私の子どもに係わる問題としてはとらえられない。また、福生の非行の問題が、単に特定の中学校の問題として語られたり、問題が起るたびにヒソヒソ話しとして語られ、それが、ますます問題の本質をゆがめて行くという状況があった。こうした状況の中で、今日の非行問題の本質を考えながら、地域の実態、非行の問題をどうとらえるのか、すぐれた実践から非行をのりこえる力を地域がどうもつのかということを中心に別紙のようなプログラムを実施した。

プログラム

- | | | |
|--------|-------------|---|
| 10月14日 | 非行を考えるにあたって | 非行を考えるにあたって、参加者の考えている問題を出しあい、非行を考えるにあたっての問題を整理をしておきます。 |
| 21日 | 学校・地域をめぐって | 60年代以後、地域や学校が大きく変わってきました、その変化をおさえ直しておきます。 |
| 28日 | 非行の現状を考える | いま子どものおかれている現状と非行の現状を知る |
| 11月11日 | 非行と戦後の児童政策 | 戦後の児童政策は終戦当時の浮浪児対策から始まったといわれます。
こどもを守る法律がどういう流れの中で生れてきたかを児童政策の流れの中で考えます。 |
| 18日 | こどもの人権と法律 | 子どもの人権を守る法として児童福祉法から少年法までいくつか大事な法律があります。その法と現実的な課題を学びます。 |
| 25日 | 非行をのりこえるために | 「非行」は発達のゆがみだといわれます。非行 |
| 12月2日 | " | I をおそれず、それをのりこえる力をどう育て、
とりくんで行くかを、すぐれた実践を通して考
II えて行きます。 |

2 青 年

青年学級（英会話教室）

職場など実生活で必要度の高まっている英会話を、10代から50代までという幅広い年齢層の参加者に、各自の一週間の出来事を自由に話し合ってもらおうという、仲間づくりの中で協同しながら身につけてゆく方法をとった。

学級運営は、受講者と講師による自主的なものとし、プログラム編成やクラス運営を行った。

1. 期間 前期、昭和52年6月5日から52年10月30日まで
後期、昭和52年11月13日から53年3月26日まで

2. 日時 毎週日曜日 午後7時30分から午後9時30分まで

3. 会場 福生市公民館 第5集会室

4. 講師 宮本長治氏（青年学級専属講師）

5. 教材 アメリカ口語教本“入門編”

6. 自主活動

ティーパーティー・バーベキュー・クリスマスパーティー

7. 受講者数 40人 × 35回 = 延1,400人

若い市民の講座

第1に、福生の青年及び市民が、自らの文化的欲求を充足してゆくための“学習機会”を設け、地域の市民・青年の学習・文化活動を助け、高める。第2に、青年自身がこうした機会を設け、学習の主体的な組み立てを実現させる。このことを基礎に、本年度は公民館の開館にともない、そのもてる機能を十分に活かし、内容をより充実化させてゆく方向で、以下のように“若い市民の講座”を実施した。

1. 主催 福生市公民館、福生市青年団体連絡協議会

2. 運営

イ 公民館主管事項

- ① 各コースプログラミング ② 講師選定、位置づけ ③ チューターへの助言 ④ コース編成 ⑤ 新コース及び未経験主管サークルコースの展開 ⑥ 講師謝礼予算措置

ロ 青連協（各サークル）主管事項

- ① 各コースのねらいと基本プログラム ② チューターの位置づけ ③ 各コースの展開 ④ 一部予算措置(社教団体補助金より)

3. 性格

昭和47・48年と青連協のサークル育成が地味に行なわれて来たが、育成の量的拡大及びサークル育成方式の整備をすると同時に、単位サークルの力量を高め、より主体的に、自力で開催し得る方向を目指す。

4. 開催準備過程

- ① 基本計画に関する打合わせ(講座実行委員会) ② チューター会議 ③ 各コースの展開の検討 ④ PR(館報、新聞、新成人者、ビラ配布 etc) ⑤ 実施詳細検討及び講師打合せ ⑥ 開講(1月末から4月まで。)

5. 実施コース

- | | | | |
|-----------------|---------------|---------|--------|
| ① 仕事を通して生き方を考える | 主管(土筆の会) | 14人×10回 | 延 140人 |
| ② 若い市民のための音楽講座 | "(サークルCMS) | 10人×10回 | 延 100人 |
| ③ 創作放送劇教室 | "(ななよん放送劇) | 12人×10回 | 延 120人 |
| ④ フォークダンス教室 | "(フォークダンス愛好会) | 20人×5回 | 延 100人 |
| ⑤ 吹奏楽講習会 | "(吹奏楽愛好会) | 25人×10回 | 延 250人 |

青年団体リーダー研修会

各青年サークル1年間の活動報告による活動目的や個人の係わりを考える中で、青年のサークル(小集団)活動を今後どのように発展させ、そのことが、青年1人1人にとってどのように様々な力をつけるものとなるかを確認し、来年度へ更に充実した活動を展開し得るようになるため、以下のように「青年団体リーダー研修会」を実施した。

- 主 催 福生市公民館 青年団体連絡協議会
- 実施日 昭和53年3月18日(土)～19日(日)
- 場 所 都立五日市青年の家
- 参加費 1人 1,000円
- 対 象 福生市青年サークル参加者

6. 事前研修会

1	3月1日(木)PM7:30	青年団体宿研の意義・当日の展開概要
2	3月8日(木)PM7:30	分科会内容とその事例発表の検討(参加者の確認)
3	3月15日(木)PM7:30	資料作成等完了及び全体的な最終確認

会場 公民館、団体事務室 参加 10人 × 3回 = 延30人

7. 研修会当日

プログラム

(3月18日)

(3月19日)

PM5:00 9:00 0:00 AM1:00 8:00 9:00 10:00 12:00 PM1:00 3:00

五時より受付	・夕食 ・入浴 ・自由時間	各サークルより年間活動の報告	運営委員会	消起 燈床	洗面 朝食	自由 交歓	問題別討議		昼 食	全体会 まとめと解 来年の活動散
							事例 発表	討 議		

参加者 全40人

※ 今年度は、公民館開館をもとに、その活用を共通項としてすすめた。

昭和53年度 成人式及び成人のつどい

成人した人達を祝い励ますとともに、成人者にとって、成人式及び成人のつどいをひとつの画期点として、人生の意味を再確認する機会として実施した。

1. 主催

福生市・福生市教育委員会・成人のつどい実行委員会

2. 開催日、会場

昭和53年1月15日(日)

福生市民会館 大ホール 第4・5・6集会室

3. 内容

1) 成人式典 AM10:30 ~ AM11:00 大ホール

- (1) 開式のことば (助役)
- (2) 君ガ代吹奏 (福生吹奏楽愛好会)

(3) 主催者あいさつ (市長、教育委員長)

(4) 来賓祝辞 (市議会議長、都議)

(5) 閉式のことば (教育長)

2) 成人のつどい AM 11:00 ~ PM 4:00

(1) はたちの音楽会 (大ホール)

○実行委員長挨拶

○吹奏楽演奏

○フォークソング

○宝くじ抽選会

(2) はたちの広場 (第4・5集会室)

○レコードコンサート

○フォークソング

○フォークダンス

模擬店

飲み物コーナー

おにぎりコーナー

おでんコーナー

フランクフルトコーナー

(3) 懇親会 (第6集会室)

“成人のつどい” 反省と、今後の活動について

4. 対象者

昭和32年4月2日から昭和33年4月1日までに出生した543人。

5. 参加者

成人式典 273人

成人のつどい 50人

6. 成人のつどい実行委員会

「成人のつどい」は、1) 成人者自身が成人することの意味を再確認・再認識し、それを皆のものにする。2) 成人のつどいを自分達の手で作り出すことによって、共通の活動への参加、連帯性の生れる契機とする。3) 地域社会の活動への参加により、地域を考える契機とする。を目的とし、新成人者全員に郵送した呼びかけで参加した13名の成人者

で実行委員会を結成した。

	準 備 事 項		準 備 事 項
11 月 27 日(日)	第 1 回 成実委	↑	1 月 5 日(木) 第11回 成実委
12 月 1 日(木)	第 2 回 "	↑	6 日(金) 第12回 "
4 日(日)	第 3 回 "	↑	7 日(土) 第13回 "
8 日(木)	第 4 回 "	↑	8 日(日) 第14回 "
11 日(日)	第 5 回 "	↑	11 日(木) 第15回 "
15 日(木)	第 6 回 "	↑	12 日(木) 第16回 "
18 日(日)	第 7 回 "	↑	13 日(金) 第17回 "
22 日(木)	第 8 回 "	↑	14 日(土) 第18回 "
25 日(日)	第 9 回 "	↑	15 日(日) 成人式 成人のつどい実施
26 日(月)	第 10 回 "	↑	

3 婦人

婦人英会話教室

日米親善の一環として、横田基地将校婦人クラブの方々の手により、英会話技術の習得と同時に、日常生活レベルに接近した文化交流を中心に、様々な交流の機会として以下のように開催した。

- 期 間 昭和52年9月8日(木)より 以後毎週木曜日・午前・午後
昭和53年5月25日まで(アメリカの学期と並行して進める。)
- クラス 午前クラス A・B・Cクラス(3コース)
午後クラス D・E・Fクラス(3コース)
- 会 場 福生市公民館(6室を利用)
- 講 師 午前 ○Mrs. Janice Cleveaud
○Mrs. Janell Coujhlín
○Mrs. Farri Collins

午後 ○Mrs. Carol Goodman

○Mrs. Dorothy Pope

○Mrs. Dorothy Steel

5. 将校婦人クラブ世話役

Mrs. Yasuko Birkhead (及びミセス・エイコ・ライスリング)

6. 教材 Basic English Conversation Drill (コメット社刊)

7. クラス運営

クラス運営は、メンバーと講師による共同学習とし、講師・メンバー間の話し合いにより自主的に進める。

8. 参加者

100人(6クラス) × 全31回 = 延 3,100人

公民館保育懇談会

公民館保育室基本要項に係わって、日常的な公民館保育活動を円滑に展開するため、母親の意識の高まりにむけて、月例の保育懇談会を設定した。また保育懇談会の一環として、幼児の成長・発達や保育に関する系統学習の機会として保育研究会を年4回実施する方向で、本年度はその一回目として以下のように実施した。

第1回 保育懇談会

1. 日時 昭和53年3月6日(月) 午前10時～12時

2. 会場 公民館第二集会室

3. 内容 ○公民館長の挨拶

○保育室を利用して(各自の感想)

○保育指導方針 ①初めて親から離れる幼児の適応にむけての指導

②異年令集団形成と指導 (保育者報告)

○今後の保育者と母親の連繫、そして母親の役割について

4. 参加者 学級講座・自主グループ各保育委員会代表、保育者、公民館職員
(各保育委員会からの参加者16人)

婦人学級

“ 幼児の成長・発達を集団と家庭から考える ”

核家族化の進行の中で、育児に携さわるママ達にとって情報は多量を極めているが、逆に体験の交流が乏しく、不安な状況がある。また子供の集団での自立、社会性の発達の基礎になる家庭での親子関係をどう樹立し、幼児に対応するかを考えるために、以下のように実施した。

プ ロ グ ラ ム

回	月 日	テ ー マ	内 容	講師・方法
1	11/30	オリエンテーション	進め方、保育室の利用、私が学びたいこと他	全体討議
2	12/ 7	集団保育の立場から	集団の中での子供の成長	桜沢ヤス子氏
3	12/14		集団保育の立場から家庭に期待するもの	桜沢ヤス子氏
4	1/18		親の対応あれこれ	桜沢ヤス子氏
5	1/25	ある幼稚園の実践	幼児への対応と自らの命の燃焼	細谷勇太郎氏
6	2/ 1	自由討議	これまで私の子供への対応を省る	話し合い
7	2/ 8	幼児の集団	すすめの学校とめだかの学校論	萩原元昭氏
8	2/15	自由討議	これまでの問題整理と私の生活	話し合い
9	2/22	子供を洞察する	ヨーロッパ視察から幼児の様子を見抜くために	萩原元昭氏
10	3/ 1	ま と め	これからの方向について と まとめとしての文集をつくるために	話し合い

○ 日時 11月30日(木) 午前10時～12時 以後毎金曜日(全10回)

○ 会場 福生市公民館・3F 第3集会室

○ 講師 桜沢ヤス子氏(都立福生保育園園長)
細谷勇太郎氏(コロリン村幼稚園園長)
萩原元昭氏(群馬大学助教授)

○ 参加者 20人 × 10回 = 延 200人

4. 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市教育委員会

福生市文化連盟

2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。（生活への還元、グループへの参加、新しいグループの創造）

- (1) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大（参加者や活動面）に役立てる。

- (2) 教育委員会 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。

昭和52年度 市民文化教室実施状況

文化連盟 共 催 (12)	コ ー ス	日 時	指 導 者		参加人員
	編 物 手 芸	8月11日(休)から全10回	編物手芸会	堂田きよ子	42人
	人 形	8月12日(金) //	酒井人形教室	酒井 虹晨	17
	盆 栽	8月6日(土) //	福生盆栽同好会	岩波 実	16
	民 謡	8月10日(木) //	春 駒 会 福生民謡会	白瀬 春駒 大谷 光利	32
	民 踊	8月13日(土) //	日本舞踊連盟 藤間勘姫延 藤間勘呂昌	花柳千衛里 藤間勘呂昌	54
	俳 句	9月5日(月) //	霧の音俳句会	来住野臥丘	18
	詩 吟	9月7日(木) //	岳心流福生教室	岡野 心雙 青柳 心寿	16
	書 道	9月8日(木) //		内田 閑堂	46
	茶 道	9月7日(木) //	茶 道 会	山田 宗恵	22
	油 絵	9月9日(金) //	武蔵野美術大	成川 治	21
	社 交 ダ ンス	9月24日(土) //		小宮 吉春	65
	短 歌	1月19日(木) //		八木下禎治	15
公 民 館 主 管 (5)	木 彫	1月27日(金) //	彫 刻 家	合津 真治	20
	スクリーン印刷	8月13日(土) //		伴内伊三郎	15
	レコード・コンサート	7月21日(木) //			20
	子供コーラス	8月5日(金) //		井上 忠治	40
	陶 芸	11月25日(土)から全3回	陶 芸 家	岡野 法世	65
	合計17コース				524

市民大学講座（経済）

不況・インフレ下の経済状況では、市民生活に与える影響が大きく、現実の経済政策の困難さとともに、市民意識の経済に向けての関心が高まっている。おとなの学習の機会として、次のように市民大学講座を開催した。

プログラム

回	日	テ　　マ	内　　　　　　容	方　　法　　等
1	6/10	プログラム準備会	講師・メンバー紹介・進め方	全員の話し合い
2	6/17	生活上の問題意識と経済	生産拡大とインフレ	レポーター M
3	6/24		金融のしくみと経済政策に占める役割	＃ I
4	7/15		コミュニティーについて 日本人固有の郷土愛や連帯	＃ B
5	7/22		都市づくりと社会資本	＃ M
6	7/29		社会契約論と現代（ルソー）	＃ T
7	8/5		低成長期の労働者	＃ Mo
8	8/2	ま　　と　　め	日本の経済と国際経済	殿村晋一氏

○日 時　　6月10日（金曜日）午後7:30～10:00 以後毎週金曜 全8回

○会 場　　福生市公民館3F 第六集会室

○講師・助言者　殿村晋一氏（専修大学助教授）

○参加者　　15人×8回＝延120人

学校教育を考える

学校教育をめぐる今日ほど多様な問題を生み出しているところはない。特に学校教育における教育内容をめぐっては、非行・おちこぼれ・入試等の問題とからみながら大きな問題を生み出して来た。福生市に於いてもこの状況は決して例外的ではなかった。しかし、その問題の過程で教師と父母集団共同によるすばらしい実践を生み出した学校も出てきている。その中で、教育問題、特におちこぼれの問題は大きな問題として受けとめられていた。おちこぼれの問題が出されるとき、常に話題になって来たのが、学校の授業の内容であったり、教科書であったりした。親の知りたいというねがいは、まさしく学校でどんな内容で教育されていくのかということであったとおもう。一方、ゆとりある学習をということで、学習指導要領の改定が出されて来た。そういう時期に、学校教育を“学習指導要領”を学ぶことを

中心とした、講座を次のように実施した。

期 間 2月3日(金)から毎金曜日 全6回 午前10時から12時まで
会 場 福生市公民館
講 師 白井 慎氏(法政大学教授)
参加者 20人

プログラム

2月3日	いま学校教育では何が問題か	いま学校教育はどういう危機をむかえているのかを明らかにしていきます。
10日	学習指導要領ってなあに	新しい学習指導にもとづいて54年から、移行時期として53年から実施されます。
17日	新しい学習指導要領のはなし	学習指導要領とは何か、その歴史と性格をお
24日	〃	さえ、新しい学習指導要領の内容や問題を考え、本当にゆとりある教育になっていくか。
3月3日	偏差値ってなあに	受験・塾等さまざまな問題と偏差値の問題を
3月10日	学校はどうかわってきたのか	明らかにしながら、戦後の学校教育の歴史と制度を考えていきます。

郷土史専門講座 = 市民大学歴史コース

郷土史専門講座として2年目に入るが、ねらいは、市民が自分たちの手で地域の歴史を発掘し、再構成してゆく力をもつことを期待した講座で、参加者が自分の関心事によるテーマ選定と、そのテーマによる論文の発表というかたちをとり、参加者全体の討論をふまえて、助言者による、論文に対するコメントという学習方法をとった。参加者から5本のレポートが出され、それをもとにして次のとおり実施した。

参加者 12人

プログラム

月 日	内 容	発 表 者	助 言 者
2. 26	郷土史専門講座で何を学ぶか		
3. 12	地域史の研究をする人のために	北原 進先生	北原 進立正大教授
3. 26	清岩院中興開基について	田村 元昭	＃
4. 9	熊川、下草花村境界争いについて	高崎 勇作	＃
4. 16	明治初期の行政区の変遷について	立川 愛雄	＃
4. 23	元禄年間の熊川村検地帳について	峰岸 秀雄	＃
5. 7	玉川における御用鮎運上について	宮田 満	＃

申請市民大学講座 “女を考える講座”

女が社会的な主体者として生活し、自立してゆくために、現状の様々な制約条件を考えると同時に、女としての性や生活について考えながら、本来の人間としての自立を実現するために、以下のように実施した。

プログラム

回	月 日	テ ー マ	内 容	講師及びレポーター
1	2/4	講座のすすめ方	自己紹介・プログラム確認・目的・方法について	全体討議
2	2/11	仕事・労働について	女が働きやすい職場とは	レポート T
3	2/18	共 働 き	男女の役割分担・家事育児	レポート S
4	2/25	家庭のあり方	理想の家庭像・夫婦親子関係	レポート K
5	3/4	女たちの動き	さまざまな生き方をしている女たち	寺崎あきこ(フリーライター)
6	3/11	女のからだ	からだの生理と機能・妊娠と出産	山田美津子(翻訳者)
7	3/18	ま と め	全体の感想・今後の方向	全体討議

○日 時 2月4日 土曜日 午後2:00～4:30 以後毎週土曜(全7回)

○会 場 福生市公民館 2F 第二集会室

○参加者 15人×7回 = 延 105人

月例自然観察会

昨年冬の自然教室終了後、自然保護の立場から、福生の自然に親しむ機会を観察会という

かたちで月例で開催したらという要求があった。この要求に答えながら、福生の自然にしたいしながら地域の自然保護にかかわる住民の底辺をひろげるためと、大人から子どもまでの参加の中で、昔の自然景観を伝え、今日の変化とくらべて行くことを考えた。

月日	テ ー マ	講 師	参加者数
5. 29	河川の水生昆虫	田中 和明（神奈川県水産研究所）	15
7. 10	河原の植物	宮岡 一雄（明治大学）	13
10. 2	〃 秋の植物	〃	12
12. 11	野鳥を覚えよう	自然観察グループ、中学生班	27
1. 29	冬の星座 I	〃	32
3. 26	冬の星座 II	〃	30

○中学生の活やく

月例 自然観察会後半は、野鳥の観察会、夏休み自然教室に参加して来ている中学生たちが中心になって、資料を作り、当日の運営や観察会での指導を行なった。そういう力をもった中学生が育ちつつあることを記しておく。

視聴覚リーダー研修会

16ミリ映写機の操作等視聴覚教育について研修することにより、視聴覚教育の拡充を目指した。

なお、昭和43年からはじめられたこの事業で修了証交付者は、累計348名となった。

1. 会 場 福生市公民館 視聴覚室

2. 日程と内容

	午後7:00～8:30		8:30～9:45	
8月31日(木)	開講式 映写機の機構と操作		実 技 ①	
9月1日(木)	実 技 ②		実 技 ③	
2日(金)	実 技 ④		実 技 ⑤	
3日(土)	視聴覚教育について フィルム利用について 保守管理について		実 技 ⑥	
	午前10:00～11:00	11:00～12:00	午後1:00～2:00	2:00～4:00
4日(日)	実 技 ⑦	実 技 ⑧	ホール用映写機の説明 8ミリ映写機の説明	個 別 操 作

3. 講 師 西野光芳氏(立川社会教育会館)他

4. 参加者数 39人

保育室利用の状況

月	件数等	件 数	人 数	
6		0	0	
7		0	0	
8		4	38	
9		11	128	
10		11	128	
11		8	98	
12		10	124	
1		11	132	
2		13	190	
3		13	197	
計		81	1,035	

○保育を行なった事業・団体グループ
婦人学級・婦人英会話Aクラス,Bクラス,
Cクラス・市大“女の講座”・市民コーラ
ス・福生手づくりの会・い子いの会・教育
講座・グループのら

5. 大 会

第8回 福生市民文化祭(基本要項)

- 趣 旨 ①市内で行なわれている文化諸活動の成果の発表の場をつくり、今後の発展を期するとともに。
②未参加者の文化諸活動への参加、各種活動の生成を促がす。
- 主 催 福生市・福生市教育委員会・福生市文化連盟
- 実行組織 実行委員会
構 成 (1)文化連盟役員
(2)出展、出演団体の代表者
(3)教育委員会・社会教育課・市民会館、公民館職員
- 期 日 11月3日(木) 4日(金) 5日(土) 6日(日)
- 場 所 展示関係 市民会館・公民館・福祉会館

演示関係 市民会館、大、小ホール

6. 実施内容 種目数については、ほぼ前年通りとする。

プログラム

分類	日	種 目	時 間	会 場	内 容	主管団体

開場式を11月3日(木)に行なう

7. 運営方針

- (1) 全般的事項(開場式他)は、主催者が担当する。(別紙)

- (2) 全般的事項以外は、主管団体が処理する。

ア. 同種のものについては、主管団体が相互に協力して実施する。

イ. 個人及び団体の一般からの出展、出演については既に主管団体があるものは、その団体が種目のない団体は、その団体が主管し、個人は教育委員会が主管する。

8. 参加内容の限定

- (1) 市民の活動であること
(2) 市民を対象とした文化的事業であること

9. 参加募集

全市民(個人及び団体)とし、1人1点に限定する。

第8回 福生市民文化祭(全般事項)

1. 全般的事項

- (1) 基本要項の決定
(2) 開場式関係

11月3日(木) 開場式プログラム別紙

- (3) 準備過程

ア. 広報

- (ア) 公 募 ○ 9月15日広報(申込方法)
 ○ 申込〆切 9月末日(別に様式)

(イ) 日程内容の周知

- 広 報 10月15日広報
 10月25日お知らせ(詳細)
- ポスター 10月1日から(150部)
- 日程表の配布 10月1日
小、中学生及び主管団体 6,000枚

(ウ) 総合プログラムの作成と配布 3,000部

申込書に原稿(別に指定する様式)をそえて9月末日までに提出

イ. 案内状・招待者

主管団体毎の招待は、各団体で行なう。

ウ. 主管団体必要物品

(ア) 指定様式に記入提出……10月中旬

○展示物 ○一般消耗品 ○演示借入品

(イ) その他の必要品 ○車 ○立て看板

エ. 役員委嘱・構成

オ. 委託料の交付

2. 準備会

(1) 基本要項の打合せ 9月1日

(2) 準備委員会

ア. 基本要項、全般事項の確定

イ. 出品、出展関係 申込書他手続き打合せ

(3) 実行委員会 9月9日

会場決定

(4) 実行委員会 10月1日

最終準備、打合せ

第 8 回 福 生 市 民 文 化 祭

日程表 1 (展 示 関 係)

○ 展 示 日 1 1 月 3 日 , 4 日 , 5 日 , 6 日

○ 時 間 午 前 1 0 時 から 午 後 5 時

種 目	会 場	主 管 団 体
美 術 展	会 館 展 示 室	福 生 美 術 研 究 所
		日 曜 油 絵 同 好 会
		市 民 文 化 教 室
	会 館 第 3 集 会 室	彩 光 会
		熊 川 絵 画 教 室
水 墨 画 展	会 館 3 階 ロ ビ ー	多 摩 水 墨 画 会
編 物 ・ 手 芸 展	福 社 会 館 和 室	堂 田 編 物 手 芸 展
日 本 人 形 展	会 館 音 楽 室	酒 井 人 形 教 室
俳 句 展	"	霧 の 音 俳 句 会
華 道 展	会 館 第 4 , 5 集 会 室	福 生 華 道 会
フ ラ ワ ー 展	福 社 会 館 第 1 会 議 室	友 野 手 芸 教 室
	"	小 沢 フ ラ ワ ー 教 室
	福 社 会 館 2 階 ロ ビ ー	恵 フ ラ ワ ー デ ザ イ ン ス ク ー ル
ミ シ ン 刺 し ゅ う 展	福 社 会 館 ク ラ ブ 室	J M ミ シ ン 刺 し ゅ う 研 究 会
写 真 展	会 館 第 4 集 会 室	福 生 写 友 会
文 化 財 展	会 館 第 8 集 会 室	福 生 市 文 化 財 調 査 会
書 道 展	福 社 会 館 ホ ー ル	蒲 公 英 書 道 会
		野 島 祥 亭 書 塾
		仙 水 書 道 会
		多 摩 書 道 会
		静 心 書 学 会
		さ つ き 書 道 会
		山 崎 書 道 教 室
消 費 者 展	福 社 会 館 第 2 会 議 室	消 費 者 展 運 営 委 員 会
菊 花 展	会 館 前 庭	多 摩 秋 盛 会
盆 栽 展	会 館 第 1 , 2 集 会 室	福 生 盆 栽 同 好 会
さ つ き 展	福 社 会 館 ロ ビ ー	福 生 さ つ き 愛 好 会
ス ク リ ー ン 印 刷 展	会 館 美 術 室	市 民 文 化 教 室
絵 本 原 画 展	福 社 会 館 視 聴 覚 室	市 立 図 書 館

日程表2 (演示関係)

日	種 目	時 間	会 場	主 管 団 体
3日 (木)	開 場 式	9:30	小 ホ ー ル	本 部
	御 茶 席	10:00~15:00	第 6 , 7 集会室	福生茶道会
	日 本 舞 踊	11:00~16:00	大 ホ ー ル	日本舞踊連盟
	音 楽 の タ べ	17:00~20:30	大 ホ ー ル	ホルンクラブ 福生吹奏楽愛好会 二中吹奏楽部 タンゴアンサンブルアミーゴ ハイブリットジャズオーケストラ 福生市民コーラス 親子演奏
	オータムコンサート	18:30~20:30	小 ホ ー ル	ブルーボーン 片岡とその仲間 モ ア マスキーハウス ライトミュージック愛好会
	詩 吟	10:00~17:00	小 ホ ー ル	福生市吟詠連盟
	市民将棋大会	10:00~17:00	福祉会館大広間	日本将棋連盟福生支部
	祭りばやし		会 館 前 庭	福生はやし連合会
	ボーイスカウト		福 生 公 園 内	日本ボーイスカウト福生第1 団
	放送劇を聞いて 生活を考える	15:30~21:00	第 6 , 7 集会室	サークル ななよん サークル ゆうかり サークル 土筆の会
	手 作 り の 会	10:00~17:00	調 理 室	手作りの会
	青 果 商 廉 売	10:00~17:00	会 館 前 庭	市経済課
5日 (土)	民 謡	11:00~17:00	小 ホ ー ル	福生民謡協会
	バ レ エ	17:30~19:30	大 ホ ー ル	久保バレエ研究所
	講 演 会	14:30~16:30	福祉会館視聴覚室	市立図書館
6日 (日)	バ レ エ	15:00~18:00	大 ホ ー ル	栗林キミ子バレエ研究所
	民 踊	12:00~14:00	小 ホ ー ル	福生民謡協会
	三 曲	14:00~16:30	小 ホ ー ル	福生三曲会
	映 画 会	9:30~11:30	小 ホ ー ル	親と子のよい映画をみる会
	レコードコンサート	14:00~16:00	視 聴 覚 室	福生市民のための音楽広場
	市民囲碁大会	10:00~17:00	第 6 , 7 集会室	日本棋院福生支部
	バ ザ ー	10:00~16:00	会 館 前 庭	福生フォークダンス愛好会
	御 茶 席	10:00~15:00	3 階 ロ ビ ー	福生茶道会
※ 参 加 種 目 3 8 団 体 1 0 1				

6 市民会館事業

昭和52年度 市民会館主催事業

1. 目的

会館は全体としては、福生市基本構想にある都市づくりの究極とも言える。豊かな人間性と文化を育てるまちを形成するために、市の行なう文化行政と教育委員会が行なう社会教育（教育・学習・文化諸活動）の役割を果たすことを目ざしている。このことは市民会館が一般的な貸ホールであることを越えて、積極的に市民文化向上への施策を展開していくことを意味する。

その一環として市民会館主催事業は、その充実した施設を利用し、市民の芸術・文化・娯楽の鑑賞と創造の契機となり、地域文化の高まりにつながることを目標に開催するものとする。

2. 今年度の目標

本年度より開館のため、年間4事業（文化庁・青少年芸術劇場含む）とし、初めて市民会館に来て、催しを味わう中で会館に対する愛着を得られることを第一義とする。また、市民会館大ホール部分の施設条件は、本来多目的ホールではあるが、ワンスローブ客席、残響等により比較的音乐条件や演劇等に適していると言える。従って、市民の各層が参加し得る企画内容（ex 家族が揃って鑑賞できる）であり、しかも市民参加の第一歩となるような事業内容を本年度の目標として開催する。

(1) 青少年芸術劇場 バレエ「ジゼル」

① 内容 I部 ○バレエコンサート

II部 ○「ジゼル」アドルフ・アダン作曲 2幕

② 解説講師 桜井 勤

③ 公演団体 社団法人 日本バレエ協会

④ 楽 団 東京交響楽団

⑤ 日 時 昭和52年8月12日 金曜日 午後1時30分開演

① 内 容 I 部 ○ボニーがあなたへ
 ○市民コーラス持ちうた

- ② 司会進行 ポニージャックスの4人のメンバーによる
- ③ 公演団体 ポニージャックス(参加ふっさ市民コーラス)
- ④ バンド 綾部 肇ピアノカルテット

- ⑥ 日 時 昭和52年9月25日 日曜日 午後2時開演

- 実入場者 小人 167 大人 438 計 605人

(3) オーケストラコンサート

- ① 内 容 I 部 オルロイアンダーソン作曲「クリスマスフェスティバル」

○伊福部昭作曲「交響譚詩」

II部 ○ベートーヴェン作曲「交響曲第五番 運命」

懇談会 “芥川也寸志氏を囲んで” 参加者30人

- ② 指揮及び音楽解説

芥川也寸志

- ③ 演奏团体 新交響樂團

- ④ 公演日時 昭和52年12月18日 日曜日 午後2時開演

※懇談会は、午後5時30分～6時45分

- ⑤ 会 場 福生市民会館 大ホール

- ⑥ 主催者 福生市民会館

- ⑦ 共催者 羽村町公民館

- ⑧ 対 象 市民一般 近隣地区（小学校就学前の幼児は入場不可）

- ⑨ 入場料 小人(小中学生)700円 大人 900円

- ⑩ 入場者 券売捌数 小人 385 大人 709 計 1,094

- 実入場者 小人 360 大人 675 計 1,035人

(4) 兒童演劇

- ① 内 容 「オニの子ブン」 2回公演

- ② 公演団体 劇団ひまわり

- ③ 日 時 昭和53年3月12日 日曜日 午前の部 午前10時開演

午後の部 午後1時30分開演

- ④ 会 場 福生市民会館 大ホール

- ⑤ 主催者 福生市民会館

- ⑥ 対 象 市民一般（親子対象）
- ⑦ 入場料 大人・小人とも 450円
- ⑧ 入場者 券売捌数 1,284
- 実入場者 1,260人